

自殺予防に対して医療、保健、福祉、心理等の専門家を目指す

学生が有すべき知識と技術向上のための教材の開発と実装に関する研究

研究代表者 堤 明純（北里大学医学部・教授）
研究分担者 井上彰臣（北里大学医学部・講師）
研究分担者 守屋利佳（北里大学医学部・准教授）
研究分担者 千葉宏毅（北里大学医学部・助教）
研究分担者 島津明人（慶應義塾大学総合政策学部・教授）
研究分担者 市倉加奈子（北里大学医療衛生学部健康科学科・講師）
研究分担者 小田原幸（国立がん研究センター社会と健康研究センター・特任研究員）
研究協力者 北里大学 SP 研究会

要旨

自殺対策や自殺のリスク要因への対応に係る人材の確保、養成及び資質の向上が重要であることから、医療、保健福祉、心理等に関する専門家などを養成する大学、専修学校、関係団体等と連携して自殺対策教育を推進することが求められている。自殺総合対策等に盛り込まれている内容とともに、自殺対策とその実施方策を盛り込んだ教材を作成し、医学部医学科の正規のカリキュラムで教育活動を行い、講義の評価を基に講義内容の洗練化を図った。さらに当該教育活動を医学部以外の学部を展開するため医療衛生学部における講義の準備を整えた。行動科学的要素を取り入れた参加型実習教材を、コミュニケーションスキル向上を目的とした実習に取り込んで作成し、医学部第1学年から第3学年の教育に活用した。これら実践や評価を反映させた「教材の使い方マニュアル」を整備した。また、新たに、医療従事者（支援者）のストレス要因を念頭ににしたストレス対処のためのセルフケア教材、対応が困難な患者とのコミュニケーション向上を目的としたロールプレイ教材を開発した。以上の講義内容および実習教材のコア部分を広く普及させるために、e-ラーニングとして、Learning Management System（LMS：学習管理システム）内に実装した。

1. 研究目的

自殺対策や自殺のリスク要因への対応に係る人材の確保、養成及び資質の向上が重要であることから、医療、保健福祉、心理等に関する専門家などを養成する大学、専修学校、関係団体等と連携して自殺対策教育を推進することが求められている。本研究では、自殺総合対策等に盛り込まれている内容とともに自殺対策とその実施方策を含む講義コンテンツを作成し、医学部医学科の正規のカリキュラムに組み入れる教育活動を行い、他学部へも展開するために、講義の評価を基に講義内容の洗練化を図った。自殺企図者の対応など医療者が遭遇し得るケースへの対応技術向上には、自らを安定な状態に保つセルフケアや、行動科学的要素を取り入れた参加型実習が有効と考えられ、ロールプレイを盛り込んだ実習の開発を試みた。さらに、以上の講義内容および実習教材のコア部分を広く普及させるための方策として e-ラーニングを開発し、医療系学部で学ぶ学生の教材として展開することを目的とした。

2. 研究方法

主に、下記3つの軸で研究を実施した。研究代表者と分担者による班会議を月一回実施して、講義・実習内容について検討し、実際の実習では、研究協力者（北里大学 SP 研究会）の協力を得て、実地の情報を得ながら教材を修正し完成させた。

1) 医学部生を対象とした講義の作成

平成 29・30 年度に整理した講義コンテンツ[自殺総合対策大綱の内容、わが国の自殺統計（自殺対策の重要性）、医療従事者の役割・機能、（労働者の）心の健康、小児・思春期の自殺対策、ゲートキーパーに求められるコンピテンシー]を基に、医学第 4 学年を対象として、正規のカリキュラム内（予防医学系）で講義を実施し、教員によるピアレビュー、学生による講義評価（理解度試験を含む）等、の評価指標を基に改善した。

2) 行動科学的要素を取り入れた参加型実習教材開発

平成 29・30 年度に作成した基本的な話の聞き方と心理的負担の強い人との面接法に関するビデオ教材を用いた実習を実施した。ビデオ教材については、実際に学生支援を行っている専門家からの評価を得た。さらに、対応困難な患者とのコミュニケーションを学ぶ実習教材を作成してロールプレイを用いた実習を行い、実習の振り返りをもとに教材の使い方マニュアルを作成した。患者の自殺を体験しうる医療従事者もセルフケアが必要な点を鑑み、ストレス対処を主体とするセルフケア教材を作成した。

3) e-ラーニング教材の作成

平成 29・30 年度に開発したコンテンツとビデオ教材とともに、令和元年度に新たに開発したセルフケア教材について、学習効果を把握するための受講後テストを作成し、Moodle や HP への実装を試みた。当該研究教育施設（北里大学）における学生自殺対策と有機的な連携を模索し、医学系他学部を含む実社会の教育への展開を図った。

倫理面への配慮

今回の教材作成に当たっては、個人情報を使用しないため倫理審査の対象外である。

3. 研究結果

- 1) 医学部生を対象とした講義の実施：これまでに作成した教材を基に医学部第 4 学年の正規カリキュラムで講義を実施し改善を加えた。医学部以外の学部に展開するため医療衛生学部における講義の準備を整えた。
- 2) 行動科学的要素を取り入れた参加型実習教材開発：これまで作成したビデオ教材を、コミュニケーションスキル向上を目的とした実習に取り込んで、医学部第 1 学年から第 3 学年の教育に活用した。さらに、実際に学生相談等に関わっている心理専門家の評価を得た。これら実践や評価を反映させた「教材の使い方マニュアル」を整備した。また、新たに、医療従事者（支援者）のストレス要因を念頭にしたストレス対処のためのセルフケア教材、対応が困難な患者とのコミュニケーション向上を目的としたロールプレイ教材を開発した。
- 3) e-ラーニング教材の作成：以上の教材に自習が可能となるようなクイズを加えて、小単位毎に区切って短時間で学習できるマイクロラーニングを応用した教材を LMS（Learning Management System）内で実装した。

4. 考察・結論

- 1) 自殺総合対策等に盛り込まれている内容とともに、自殺対策に関する授業の内容と実施方策の検討に基づいて、医学部医学科の正規のカリキュラムに組み入れる教育活動を行い、講義の評価を基に講義内容の洗練化を図った。
- 2) 自殺企図者の対応など医療者が遭遇し得るケースへの対応技術向上には、行動科学的要素を取り入れた参加型実習が有効と考えられ、ロールプレイなどを盛り込んだ実習を開発した。
- 3) 以上の講義内容および実習教材のコア部分を広く普及させるための方策として e-ラーニングを開発し、医療系学部で学ぶ学生の教材として展開する準備を整えた。

5. 政策提案・提言

自殺総合対策が目標とする自殺対策を推進するに当たっては、自殺対策や自殺のリスク要因への対応に係る人材の確保、養成及び資質の向上が重要であることから、医療、保健福祉、心理等に関する専門家などを養成する大学、専修学校、関係団体等と連携して自殺対策教育を推進することが求められている。とくに医療、保健福祉、心理等に関する専門家には、ゲートキーパー等の自殺対策の連携調整（公衆衛生専門家としての機能）、自殺リスク評価及び対応技術等に関して高い資質を有するかかりつけの医師等（臨床医としての機能）、医療者としてだけでなく自殺リスクを抱えている人に寄り添いながら、地域における関係機関や専門家等と連携して伴走型の支援を担う（ピアサポーターとしての機能）等の機能が求められ、これらを修めるための教育資材を開発し、広く普及させる方策を実装する必要がある。

そのために、下記教育資材を提案した：

- 1) 自殺総合対策等に盛り込まれている内容とともに、医療、保健福祉、心理職等に求められる自殺対策の機能を網羅した講義コンテンツ
- 2) 医療者が遭遇し得るケースへの対応技術を向上させるための、面接法、ピアサポート、自殺企図者への対応等の行動科学的要素を取り入れた参加型実習のビデオ実習教材と使用法マニュアル
- 3) 患者の自殺を体験しうる医療従事者が安定して支援を行うためのストレス対処を主としたセルフケア教材
- 4) 以上の講義内容および実習教材を広く普及するために自己学習可能な e-ラーニング。

6. 成果外部への発表

(1) 学会誌・雑誌等における論文一覧（国際誌 0 件、国内誌 2 件）

- 1) 井上彰臣, 堤 明純, 守屋利佳, 千葉宏毅, 島津明人, 小田原幸, 外山浩之, 市倉加奈子. 自殺対策に関して医療, 保健福祉, 心理等の専門家を目指す学生が有するべき知識と技術向上のための教材開発. 自殺総合政策研究 2019; 2(1): (印刷中)
- 2) 大類真嗣, 田中英三郎, 前田正治, 八木淳子, 近藤克則, 野村恭子, 伊藤弘人, 太平哲也, 井上彰臣, 堤 明純. 災害時のメンタルヘルスと自殺予防. 日本公衆衛生雑誌 2020;67(2):101-110.

(2) 学会・シンポジウム等における口頭・ポスター発表（国際学会等 0 件、国内学会等 3 件）

- 1) 堤 明純. 北里大学における行動科学に関する教育. 全国機関 衛生学公衆衛生学教育協議会 2019 年度第 1 回総会. 2019 年 10 月 高知
- 2) 井上 彰臣, 堤 明純, 守屋 利佳, 千葉 宏毅, 小田原 幸, 島津 明人. 北里大学医学部における行動科学・行動医学教育の実践. 第 26 回日本行動医学会学術総会シンポジウム 医学教育における行

動科学・行動医学教育の実践. 2019 年 12 月 東京

- 3) 堤 明純, 井上 彰臣, 守屋 利佳, 千葉 宏毅, 島津 明人, 市倉加奈子, 小田原 幸. 自殺予防に対して医療, 保健, 福祉, 心理等の専門家を目指す学生が有すべき知識と技術向上のための教材の開発と実装に関する研究. 平成元年度 自殺対策推進レアール. 2020 年 3 月 東京

(3) その他外部発表等 なし

7. 引用文献・参考文献 なし

8. 特記事項

(1) 健康被害情報 なし

(2) 知的財産権の出願・登録の状況 なし